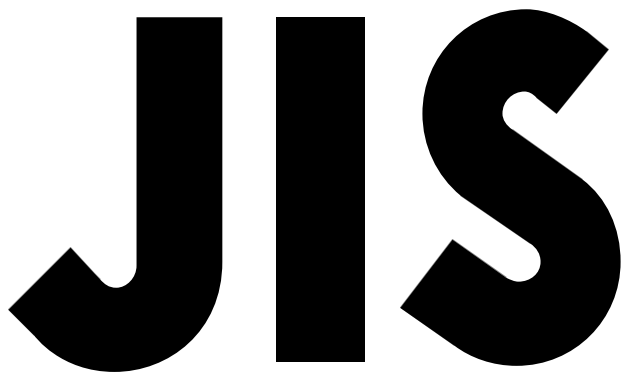




ガラス繊維一般試験方法

JIS R 3420 : 2023

(GFA/JSA)

令和 5 年 7 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	松 橋 隆 治	東京大学
(委員)	安 部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	江 坂 行 弘	一般社団法人日本自動車工業会
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	奥 野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	木 村 一 弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	倉 片 憲 治	早稲田大学
	越 川 哲 哉	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	是 永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	椎 名 武 夫	千葉大学
	寺 家 克 昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	清 家 剛	東京大学
	高 辻 利 之	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	千 葉 光 一	関西学院大学
	渡 田 滋 彦	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	中 川 梓	一般財団法人日本規格協会
	久 田 真	東北大学
	廣 瀬 道 雄	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	細 谷 恵	主婦連合会
	棟 近 雅 彦	早稲田大学
	村 垣 善 浩	神戸大学
	山 内 正 剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
	山 田 陽 滋	豊田工業高等専門学校

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 53.4.1 改正：令和 5.7.20

官報掲載日：令和 5.7.20

原案作成者：硝子纖維協会

(〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-21-16 日本ガラス工業センタービル TEL 03-5937-5763)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会（部会長 松橋 隆治）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課（〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1）にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも５年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	2
3 用語及び定義	3
4 試験室の標準状態及び試験条件	3
5 試験項目	3
6 試験方法	4
6.1 番手	4
6.2 クロス及びマットの質量	7
6.3 水分率及び強熱減量	11
6.4 引張強さ	14
6.5 よ（撚）り数	22
6.6 単繊維直径	24
6.7 クロス及びマットの幅及び長さ	26
6.8 チョップドストランドの長さ	29
6.9 密度（織り密度）	29
6.10 クロス及びマットの厚さ	31
6.11 アルカリ含有率	35
6.12 酸化ジルコニウム含有率	40
6.13 結合剤のスチレン溶解性	40
6.14 クロスの通気性	43
6.15 クロスの耐折強さ	44
6.16 軟化点	45
6.17 クロスの引裂強さ	46
6.18 クロス及びマットの接触成形性	48
6.19 マットの引張強さ	50
6.20 ガラス系のよ（撚）り平衡指数	52
6.21 ローピングの硬さ	53
6.22 クロスの慣用曲げ剛性	55
6.23 外観	58
7 報告書	59
附属書 JA（参考）JIS と対応国際規格との対比表	60
解 説	69

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、硝子繊維協会（GFA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS R 3420:2013** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

ガラス繊維一般試験方法

Testing methods for textile glass products

序文

この規格は、2014年に第4版として発行された **ISO 1887**、2022年に第4版として発行された **ISO 1888**、2009年に第4版として発行された **ISO 1889**、2009年に第4版として発行された **ISO 1890**、2010年に第2版として発行された **ISO 2558**、2011年に第5版として発行された **ISO 2559**、2000年に第3版として発行された **ISO 3341**、2011年に第4版として発行された **ISO 3342**、2010年に第3版として発行された **ISO 3343**、1997年に第2版として発行された **ISO 3344**、2000年に第3版として発行された **ISO 3374**、2009年に第2版として発行された **ISO 3375**、2001年に第2版として発行され、2017年に Amendment 1 が発行された **ISO 3616**、2010年に第3版として発行された **ISO 4602**、1993年に第2版として発行され、2010年に Amendment 1 が発行された **ISO 4603**、2011年に第2版として発行された **ISO 4604**、1995年に第2版として発行された **ISO 4606**、2011年に第2版として発行された **ISO 4900** 及び 2017年に第3版として発行された **ISO 5025** を基とし、我が国の市場の実態に整合させるため、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、ガラス長繊維及びガラス短繊維を用いたガラスクロス、ガラスマット（以下、それぞれクロス、マットという。）などの製品の一般試験方法について規定する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 1887:2014, Textile glass—Determination of combustible-matter content

ISO 1888:2022, Textile glass—Staple fibres or filaments—Determination of average diameter

ISO 1889:2009, Reinforcement yarns—Determination of linear density

ISO 1890:2009, Reinforcement yarns—Determination of twist

ISO 2558:2010, Textile glass chopped-strand mats for reinforcement of plastics—Determination of time of dissolution of the binder in styrene

ISO 2559:2011, Textile glass—Mats (made from chopped or continuous strands)—Designation and basis for specifications

ISO 3341:2000, Textile glass—Yarns—Determination of breaking force and breaking elongation

ISO 3342:2011, Textile glass—Mats—Determination of tensile breaking force

ISO 3343:2010, Reinforcement yarns—Determination of twist balance index

ISO 3344:1997, Reinforcement products—Determination of moisture content

ISO 3374:2000, Reinforcement products—Mats and fabrics—Determination of mass per unit area